

## 7 尾がある両生類

下山 良平

### サンショウウオの仲間

サンショウウオは、カエルと同じ両生類の仲間です。カエルとの大きな違いは、成長して成体になっても尾があること、カエルのように跳躍できないことなどです。

上伊那に生息しているサンショウウオは、ハコネサンショウウオとヒダサンショウウオの2種で、どちらの種も溪流の中で繁殖します。

なお、上伊那誌など古い文献には、辰野町の小野地区に止水繁殖種であるクロサンショウウオの記述もあります。仮に実際に生息しているとするれば、この種の分布南限の産地となるため、たいへん貴重なものとなります。しかし、その後、多くの研究者たちによる懸命の探索にもかかわらず、生息の確認はなされていません。

### ハコネサンショウウオ

#### サンショウウオ科

標高1000m以上の山地でごく普通のサンショウウオ。尾を含めた体長は130~190mmで、全身の半分程度が尾という、たいへんスリムな体型が特徴です。

背面の色彩は、地色が茶褐色でその上に黄褐色もしくは金色の縦条があります。

このサンショウウオの最大の特徴は、成体でも肺を持たず、もっぱら体表の皮膚や口で呼吸を行うことです。

上伊那では、初夏から秋期にかけて、南アルプスや中央アルプスの中腹から稜線部に至るまで、至る所の溪流や周辺の林床で成体を観察できます。

また、溪流の流れの中では、黒い爪を持った幼生が年間を通して観察できます。

このサンショウウオの繁殖場所は、溪流に流れ込む小さな湧水の伏流部です。5月の中旬頃に、産卵場所へと向かう多数の成体が沢すじなどで見られ、メスの腹部には皮膚を通して卵も観察できることから、この時期が繁殖期だと考えられます。



金色の帯が美しい個体

### ヒダサンショウウオ

#### サンショウウオ科。長野県レッドリスト準絶滅危惧種。

標高1000m以上の山地に生息するサンショウウオ。尾を含めた体長は100~180mmで、ハコネサンショウウオと同じくらいですが、小太りですんぐりした体型なので、区別は簡単です。

背面の色彩は、地色が紫褐色でその上に黄色い斑点または斑紋が多数散在しています。

上伊那では、中央アルプスや南アルプスの中腹でいくつかの産地が確認されています。

晩秋から翌春にかけて、流れの緩やかな溪流の石下に成体が集まってくるほか、流れがよどんだような場所で幼生も観察できます。本種の幼生には、黒い爪は発達しないので、ハコネサンショウウオの幼生との区別は容易です。

また、春先に流れの中の石や枯れ木の下面に産みつけられた卵囊(卵が入った袋)も観察されます。



上は成体、下は幼生。

## イモリの仲間

体型はサンショウウオに似ていますが、体表がサンショウウオのようにぬるぬるしていません。また、産卵の際に、サンショウウオの仲間が1対の卵囊を産むのに対して、本種は水草に1粒ずつ卵を産みつけるという、大きな違いがあります。

## アカハライモリ

イモリ科。長野県レッドリスト準絶滅危惧種。

平地から里山の水田地帯を中心に広く生息しています。伊那市高遠町郊外の千代田湖、入笠山山頂周辺の湿原（伊那市長谷）など、標高の高い生息地もあります。

全長70～140mm。背面は真っ黒ですが、覆面は派手な赤色の地に不規則な黒斑があります。

